

1 学年 農業科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	玉ねぎ	生徒	農業科1学年 生徒8名
		場所	農場内ハウス
日時	平成 30 年 10 月 25 日 (木) 5～6校時	指導者	MT:西脇 ST1:高山 ST2:中山 ST3:藤倉

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・作物の生産、販売に必要な知識と技術を習得することができる。

(本時の目標)

- ・自助具を用いて、玉ねぎを規格ごとに選別することができる。

2 生徒について

- ・時間を意識して取り組むことが苦手な生徒が多い。
- ・単調な作業では時間いっぱい集中して取り組むことができる。
- ・指示待ちが多く、主体的に取り組むことが苦手である。

3 指導計画

第1回 10月17日 : 玉ねぎの選別1

第2回 10月25日 : 玉ねぎの選別2 (本時)

第3回 11月1日 : 玉ねぎの選別3

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

① 主体的な学びについて

- ・選別するおおよその量を考える時間を設定する。
- ・効率よく選別ができる物の配置や進め方を考えさせる。

② 対話的な学びについて

- ・ペア同士で話し合いをして、選別する量を決める時間を設定する。
- ・規格の判断がつかない物をペアで話し合い、判断させる。

③ 深い学びについて

- ・目標とする量の選別ができたかどうか振り返りの時間を設定し、今後の作業の取り組みの改善点について考えさせる。

5 期待できる指導の効果

- ・作物の生産と流通に関する知識を身に付けられる。
- ・課題解決的な学習を通して、他の作物生産などに応用できる知識と技術を身に付けられる。
- ・作業効率、生産性の高い取り組みについて気付く。

※ 授業を振り返って

5月から長期に渡って取り組んできた題材「玉ねぎ」であるために、生徒個々が考え、判断する場面を織り交ぜて展開できたことで主体的、対話的な学習で実践することができた。効率のよい作業の取り組みについて考えることで深い学びにつながる学習が展開できたが、選別以外の作業場面における生産性の高い取り組みについて考え、判断し実践できるようにすることが今後の課題である。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	・挨拶 ・本時の学習内容	・日直が挨拶をする。 ・本時の学習内容の流れを確認する。	・姿勢、身だしなみを確認する。 ・本時の流れを模造紙で確認する。		・模造紙
展開 80分	・玉ねぎ選別の進め方の説明	・選別の仕方の説明を聞く。 ・選別の仕方を知る。 ① <u>2人1組のペアを作る。</u> ② <u>時間配分を踏まえ、どのくらいの量を選別できるか考え、ペアと相談する。</u> ③ <u>ペアの代表同士が話し合いをしそれぞれの量を決め、すずらんテープで区切る。</u> ④ L、M、S、SS サイズを入れるコンテナを配置する。その際どのように配置すれば効率よく進められるか考える。	・作業の進め方について説明する。 ・活動①②③④⑤について具体的に手本を示しながら説明する。 ・作業終了時間や時間内に終える量を考えるように伝える。 ・すずらんテープでの仕切りではお互いに協力するように言葉掛けする。 ・コンテナの配置や人の立ち方など、どのように配置し作業を進めれば効率よく進められるか考えて工夫するように伝える。	・説明を聞く様子を確認する。理解できていない様子の生徒がいれば、個別に再度確認する。 ・ペアの話し合いの様子を確認し、必要に応じて時間内に終えられる量について助言を行う。 ・すずらんテープの仕切り方に苦慮しているペアの支援をする。 ・コンテナの配置や作業の進め方で必要に応じて助言をする。	・コンテナ×16 ・すずらんテープ ・はさみ

		⑤自助具を使って選別をする。	・玉ねぎを落としてしまったり、腐って商品にならないものを教師に報告するように伝える。	・ペア同士話し合いができていなかったり、効率よく作業が進められていなかったりする場合は具体的な助言をする。	
整理 15分	・片付け、清掃、振り返り ・挨拶	・<u>時間になったら、道具を片付けて清掃する。</u> ・ペア同士で話し合いをし、目標量を達成できたか、良かった点、作業を効率よく進めるための改善点などを反省する。 ・ペアの代表者が振り返った内容を発表する。 ・日直が終わりの挨拶をする。	・協力して片付けするよう言葉掛けする。 ・話し合いを通して、自分の取り組みを振り返るように伝え、次回への取り組みの改善点を考えさせる。 ・本時の取り組みを講評し、次回の作業への意欲付けをする。 ・終わりの挨拶をする。	・主体的、協力的に動いているか確認し、必要に応じて言葉掛けする。	

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	玉ねぎ	生 徒	農業科1学年 生徒7名
		場 所	農場内ハウス
日 時	平成 30 年 10 月 25 日(木)5～6校時	指 導 者	MT:西脇 ST1:高山 ST2:中山 ST3:藤倉

① 主体的な学びについて

一度経験した作業内容を基に、効率よい作業の進め方について考えながら、作業に取り組む学習を行った。学習の進め方について紙面で提示することで学習の流れをおおまかに理解し、生徒主体で声を掛け合い、学習を進める様子が見られた。

ペアによっては選別量について決めかねる様子が見られたため、声掛けが必要だった。ペアを決める際に生徒の特性などを考えてペアを決めることで、より生徒主体で選別量を考える学習が展開できたと思う。

コンテナなどをどのように配置したら効率よく作業が進められるかは、前回での学習での助言などを基に問題なく配置し、作業に取り組むことができていた。

② 対話的な学びについて

玉ねぎの選別を行う際に、判断がつかない玉ねぎについてペアで相談できるようにした。お互いのペアで確認したり、教師に確認したりして、積極的なコミュニケーションを図ることができていた。特に自分からの会話のきっかけづくりを苦手とする生徒にも積極的にペアに関わる様子が見られた。

繰り返しの作業の中で、規格の判断を徐々に理解し、作業を効率よく進められるようになってきたが、生徒によっては自分で判断せず、人に判断を委ねることが目立つ生徒もみられた。自分で考え、判断しその上で分からないことをペアに確認できるように自助具などを工夫することが必要だと感じた。

③ 深い学びについて

目標とする出来高を達成できたかどうか振り返りをして、取り組みの改善点について考えさせた。その結果、全ペアが当初目標とした量（出来高）を選別できたことで作業に対する充実感をもち、良かった点を考え、発表することができたことは深い学びにつながっていると思う。

教師からの講評を行い、それぞれのペアの改善点について具体的に伝えたところ、理解した表情を示す生徒もいたが、一部の生徒では伝わりきらなかった様子も見受けられた。自分の取り組みについて良かった点だけでなく、よりたくさんの選別するための改善点についても考えさせる時間をとって発表し、その点について助言ができれば、より深い学びにつながる学習が展開できたと思う。

④ STの活用の仕方について

ペアでの目標出来高の話し合いや、効率よく作業を進めるための物の配置などについて必要に応じて支援を行ってもらった。授業展開ではペアで話し合いをしたり、リーダーシップを発揮できる生徒の発言もあつたり、生徒自身で作業展開を行うことができていたため、STとしての動きは見守りする場面が多くなった。時間を意識して取り組むことが苦手な生徒も多いため、残り時間を考えての作業ペースについて生徒への促しをするなど事前に確認できればよかった。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	玉ネギ	生 徒	農業科1学年 生徒8名
		場 所	農場ハウス内
日 時	平成30年10月25日(木)5～6校時	指 導 者	MT:西脇 ST1:高山 ST2:藤倉 ST3:中山

① 主体的な学びについて

選別するための量を決める際に、話し合いが長くなってしまっていたため、声を掛けた。どのくらいで行えるかということに見通しをもちにくい生徒が多いため、決めることに時間がかかったと考える。一部の生徒は考えることができるため、グループ分けを工夫することで対処できるように感じる。

② 対話的な学びについて

話し合いを深めようとするあまり、長い話し合いになっていた。お互いの意見を伝えるものの、かみ合わず、なかなか結論には至らなかった。そのため、どうしたいのか、どうすると良いのかを深めるために、教師がファシリテーターになる必要があった。自分たちの思いを伝えるという観点では、良かった。

③ 深い学びについて

予定を立てて選別をしたが、予定よりも多く選別することができたグループが多かった。そのため、見通しの立て方が適切であったか、どのような動きをすると良かったのかを振り返りをする事となった。自分たちの善し悪しを振り返ることができた。話し合いの仕方については、今後も継続した学習が必要である。

④ STとしての動き方について

一部の話し合いの際に、ファシリテーターとなり、話し合いを進めた。できる限り、生徒主体でできるようにしたかったが、難しい場面もあった。今後のホームルーム活動の中で、話し合いをスムーズに行えるようにしていく。

上記のように動いているため、MTの趣旨とは異なる行動をしてしまったかと思う。事前に、生徒の様子などを交流し、指導の仕方を打ち合わせしていきたい。

実践レポート（S T用）

単元・題材名 (授業名)	玉ネギ	生 徒	農業科1学年 生徒8名
		場 所	農場ハウス内
日 時	平成30年10月25日(木)5～6校時	指 導 者	MT:西脇 ST1:高山 ST2:藤倉 ST3:中山

① 主体的な学びについて

選別をする量を考えるときに生徒に考えさせている場面で助言や支援をするタイミングや言葉掛けに戸惑いと難しさを感じた。効率よく作業するための配置など最初に決めているときに時間がかかっていたので、ある程度意見がまとまったところでまずやってみることを助言した。行動に移す大切さを改めてよく理解した。

② 対話的な学びについて

ペア同士の話し合いの時に、生徒同士がお互いに話し合うところはよかった。しかし、タマネギの選別で設定した場所と違う部分を行っていることに気付くのが遅くなり、生徒に問いかけたときに確認不足が発覚した。自分がペアを設定したときに、確認のために生徒に聞くべきであったと感じた。

③ 深い学びについて

振り返りの時間のときに、各グループを回りながら生徒の意見などを聞くところを1カ所に止まってしまう。最終的には生徒の話し合いの中で、具体性のある意見を考えさせることができていたのか正直自分がうまく立ち回れていたか不安が残った。

④ S Tとしての動き方について

作業の進め方の確認や説明のときに、MTの補助をする場面で計画とは異なる動きになってしまった。グループ間巡視をしているときに助言というよりも指示となってしまった。また、声がしっかりと通っておらず生徒に聞こえていない場面があった。グループ間巡視の時にMT他のMTと被っている立ち位置にすることが多かった。

実践レポート（S T用）

単元・題材名 (授業名)	玉ねぎ	生 徒	農業科1学年 生徒8名
		場 所	農場ハウス内
日 時	平成30年10月25日(木)5～6校時	指 導 者	MT:西脇 ST1:高山 ST2:藤倉 ST3:中山

① 主体的な学びについて

選別する玉ねぎの量や道具の配置、作業の進め方は生徒が考えて行動していたが時間が少しかかってしまった。

② 対話的な学びについて

ペアになった生徒同士で話し合いながら選別量や規格外の判断を行っていたので対話的な学びはできていた。

③ 深い学びについて

振り返りのとき、目標量が達成できたかや良かった点、作業効率を良くするための改善点などをペアになった生徒同士で反省を行っていた。

④ S Tとしての動き方について

全体的に生徒の話し合いの時間がかかってしまい、生徒主体の作業学習を心掛けているが、生徒が作業で困っているときは、早めに作業のヒントを教えるようにすると良いと思った。

授業参観者アンケート

授業者： 西脇 功二

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○1 学年より

- ・2人または3人でペア：誰がどこを分担するのかきちんと確認できていて良かったです。
- ・指示を聞く姿勢があり、不安や不確かなことを先生に確認することができていました。
- ・素手や軍手のどちらが作業しやすいのかと思います。
- ・ペアで教え合ったり、聞き合ったりすることができていました。

○2 学年より

- ・ペアや3人で協力して、選別していて選別が難しいサイズがあったときには周りの人と相談したり、質問したりをして主体的に学習できていました。
- ・友達同士で反省し、全員意見を発表することができていました。

「主体的な学び」

- ・スズランテープで区切ることで、ゴールが見えて見通しがもちやすく、他人任せにならないことができています。しかし、それをペアで統一できていないところもありました。
- 道具の配置については考えているペアがありました。進め方については、あまり深く考えることができていない様子がありました。

「対話的な学び」

- ・選別する量はペアではできている様子もありましたが、他のペアとのやりとりはあまりなかったです。ペア同士のやりとりはありましたが、すぐに答えを出してしまうのではなく、もう少し考えて答えを出すことで、学びが深まると感じました。

○3 学年より

- ・選別する量の設定は、「この時間の目標」という点で、生徒に分かりやすい形として示すことができたのではないのでしょうか。
 - ・生徒の反省に一つ一つ丁寧にコメントをしていたのは、自分はあまり得意ではないので大変参考になりました。
 - ・玉ねぎの選別という基本的な作業のテーマを選び、授業を進めていった作業学習の在り方が大変参考になりました。
 - ・生徒間の話し合いのときの声が小さかったです。しかし、「こんにちは。」の声は大きかったです。
 - ・話し合いが、サイズで悩んだときだけではなく、腐ったものや芽が出ているものも、仲間と確認してから教師に報告するなどができたら、コミュニケーションの幅が広がるのではないかと思います。
- 話し合いは、「サイズで悩んだときのみ」の感じがして、もったいないと思いました。場所を移るときに、「僕こっちやります。」「コンテナいっぱいになったので持って行きます。」などがあるとより良かったと思います。

○管理職より

- ・生徒が選別しやすいようにサイズ別の治具を用いて学習を進めたことは、主体的な学習になるための手立てとして良かったです。しかし、途中から治具を使わないで学習を進め、自分でどのくらい判断できるのかを確認する場面があっても良かったのではないかと思います。たとえ間違えても、周りの教員から「そのサイズでいいの?」「周りの人に聞いて見たら?」とペアで意図

的に話し合いができるように投げかけてみても良いのではないかと思います。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○1 学年より

- ・整列がされていて良かった。
- ・先生の問いに「はい。」と答えられるのが良かったです。
- ・「～してもらっていいですか。」などと、自分がしてほしいお願いが敬語で依頼できていた。
- ・生徒が混乱していたときにタイミングよく指示と確認の言葉掛けをしていて良かったです。
- ・日常の学級の人間関係の良さが出ていました。
- ・集中して取り組むことができていて良かったです。
- ・速さを意識している生徒もいました。
- ・返事、確認ができている生徒がいた。
- ・速さにばらつきがあり、自分のペースで行っている生徒もいました。

○2 学年より

- ・挨拶の声は大きいですが、生徒同士と ST も含めて作業中の声が小さかったです。
- ・役割分担と道具準備をしてから作業を行うことができていて良かったです。
- ・良かったところは、教師の言葉掛けや指示が多すぎず生徒が理解しやすい分量になっていたため、主体的に行動することができていました。
- ・ST の言葉掛けをするときにみんなに聞こえる大きな声ではなく、その生徒の近くに行くと良い場面がありました。
- ・MT の指示で「中途半端な箱をまとめてください。」という指示に対し、正しく理解できていない生徒が 3 人ほどいたので、もう少し具体的な指示を出したほうが良かったです。

○3 学年より

- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・玉ねぎの皮の片付けでは、網の下の方も行い、きれいにすれば 100%だったと思いました。
- ・生徒に質問をしたときに、パッと答えられていたので、作業をする理由や注意点が良く分かっていると思いました。
- ・生徒が話しかける前に教師側から声を掛けていたことがあったため、生徒からくるまで待った方が良かったと思いました。
- ・かごが一つ終わったら確認しに行くなど、教師の確認があった方が、作業の正確さについての指導や評価ができると思います。

○管理職より

- ・教材の配置が分かりやすくて良かったです。

2 学年 農業科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	ミニシクラメン播種 (サイネリアとプリムラのポット上げ)	生徒	農業科2学年 生徒6名
		場所	温室作業場
日時	平成 30 年 11 月 29 日(木)5～6校時	指導者	MT:小原 ST1:山田 ST2:関口

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・ミニシクラメンの播種を覚える。
- ・(サイネリアとプリムラのポット上げの方法を覚える。)

(本時の目標)

- ・必要な情報を共有して播種の方法を行うことができる。
- ・(ポット上げを行うことができる。)

2 生徒について

- ・異なる種類の播種は行ったことがある。
- ・分からない作業内容を仲間や教師に聞くことができる。
- ・作業手順を工夫して、やりやすい方法を考えることができる。

3 指導計画

第1回 10月25日 : シクラメンの播種 1回目

第2回 11月29日 : ミニシクラメンの播種 2回目(本時)

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

① 主体的な学びについて

- ・教師からの情報を基に、道具の準備を行うことができる。
- ・適切な方法で播種とポット上げを行うことができる。

② 対話的な学びについて

- ・グループで作業内容を整理して道具の準備や注意点を話し合う。
- ・1年間かけて栽培する題材である授業の始めに題材の説明をする。

③ 深い学びについて

- ・来年度の学校祭で販売する鉢花だと認識して、1年間をかけて育てることを知り、今後の作業学習に活用できるようにする。

5 期待できる指導の効果

- ・導入で来年の学校祭で販売する物であることを認識させ、今後の管理作業に見通しをもつことができるように説明する。
- ・物を大切に扱うように実践を通して生活に置き換えることができるように指導する。

※ 授業を振り返って

「主体的・対話的で深い学び」について農業科の作業では、同じ作業の繰り返しが多く、作業方法の劇的な進化が少ない教科であると再認識した。対話する場面を増やすのに、セルトレイの消毒や播種用土をふるいにかけるなどの作業内容を増やし場面を設定した。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	- 挨拶 - 本時の内容説明	- 日直が挨拶をする。 - 本時の授業内容の説明。 - 作業終了時間を日直が先頭になり決める。	- 日直に指示を出す。 - ミニシクラメンについての説明。 2人1組のペアを作る。	整列しているか、確認する。	
展開 60分	作業開始	- 道具を準備する。 <u>腐葉土ふるいとセルトレイの消毒の係に分かれ作業を行う。</u> - 手本を見る。 - 準備が終わったら作業開始する。 2人1組で播種を行う。	- 道具の場所がわからない生徒に指示を出す。 - セルトレイの消毒につく。 - 手本を見せる。 - セルトレイへの播種用土の詰め方から燐炭のかけ方まで一通り見せる。 - 巡回しアドバイスをする。	- 道具が準備されているか確認をする。 - 腐葉土ふるいにつく。 - 巡回しアドバイスをする。 - 播種をしたセルトレイの底面給水をする。	- セルトレイ - 播種用土 - ふるい - 伸ばし棒 - 燐炭 - 腐葉土 - ピンセット

		(作業時間に余裕があれば) ・播種が終了したら。ポット上げに切り替わる。 ・シザンサス、プリムラなどのポット上げを行う。	(作業時間に余裕があれば) ・使う道具の指示を出す。		
整理 15分	・片付け ・反省 ・挨拶	・道具洗いと作業場の清掃を行う。 ・ミニシクラメンについて確認をする。 ・挨拶	・本時の作業内容を確認させる。 ・日直に挨拶を促す。		

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	ミニシクラメン播種 (サイネリアとプリムラのポット上げ)	生徒	農業科2学年 生徒6名
		場所	温室作業場
日時	平成30年11月29日(木)5～6校時	指導者	MT:小原 ST1:山田 ST2:関口

① 主体的な学びについて

教師からの情報を基に、作業内容をペアと協力して学習を行った。題材は異なるが、播種は行ったことがあるので、プラスαの部分を相談して授業に取り組んでいた。道具の準備や播種のやり方、確認の方法など、それぞれのペアで相談して、効率の良い方法を考え行うことができた。

ペアによって進み具合が異なり作業時間に偏りが出てしまったので、作業時間を設定し時間を意識させ作業学習に取り組ませるようにする。

② 対話的な学びについて

ペアで作業を行ったため、道具の準備の時に相談して意見を出しながらする場面が見られた。作業内容も相談し、確認方法などを決め取り組むことができていた。色々な場面においても対応できるようになってきている。引き続き指導をしていく。

③ 深い学びについて

題材が1年間通して行うため、丁寧さと繰り返しの作業が中心となってくる。同じ作業の大切さと必要性を学んでいく本時はその第1歩目である播種の作業を行った。期間が空く題材で時間も掛かり、深い学びにつなげるのが難しいと感じた。日々のミニシクラメンの観察などを授業に取り入れて行き、成長過程を見てもらい深い学びにつなげていきたい。

④ STの活用の仕方について

作業手順の確認や道具の使い方の指導を行ってもらった。今回はプラグトレイの消毒と土ふるいの2展開に分かれたため、土ふるいの指導についてもらった。指導方法など事前に打ち合わせを行い、作業方法の確認をした。作業内容も時間が空くことが多く、指導者によって指導方法が違っていると生徒が混乱を起こすため、統一した指導を心掛けている。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	ミニシクラメン播種 (サイネリアとプリムラのポット上げ)	生 徒	農業科2学年 生徒4名
		場 所	温室作業場
日 時	平成30年11月29日(木)5～6校時	指 導 者	MT:小原 ST1:関口

① 主体的な学びについて

MT の説明を聞き、説明を理解した上で行動や発言を気にしながら巡視していた。前回と今回の MT の説明を受け、準備や実際の播種の工程を把握し、行動に移すことができた。しかし、不測の事態や質問されたとき、分からないことなどを素直に確認できなかったり、行動に移すことができない様子が見られたりする生徒もいたので、普段からの対応の意識付けが必要であると感じた。

② 対話的な学びについて

グループでの取り組みのときは、活動に偏りがあるときや、不足のときに助言を与えられるように巡視していた。状況を見て役割分担して行っていた部分もあるが、動きが分からない生徒もいたのでその都度助言をした。伝える部分と考えさせる部分の見極めを考えていかなければならないと感じた。

③ 深い学びについて

今年度のシクラメンを見せ、1 年かけて育てることとその他の草花と異なる部分を伝え、管理の難しさと今後の作業の意識すべきことを伝えた。作物の成長を普段の自分の成長に置き換えて考えさせ、普段の生活の中で積み重ねが大切であることを合わせて伝えたかったが、その点は不十分である。

④ S Tとしての動き方について

生徒の様子を見ながら巡視をしていたが、助言と考えさせるところの見極めが難しいと感じた。MT とどのようなときに助言を行うか、どの部分は考えさせるかを密に打ち合わせをする必要がある。また、作業だけでなく、普段の授業を生かしたりつなげたりすることが改めて大切であることを改めて実感した。

授業参観者アンケート

授業者： 小原 政住

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○ 1 学年より

- ・相談や確認をしながら作業を進めているところが良いと思いました。

○ 2 学年より

- ・生徒同士が主体になって動いていることが少なかったです。
- ・生徒同士で確認し合ったり、教え合ったりして対話的な場面が見られていました。
- ・異なる種類の播種を行ったことがあることにより、思い出して主体的に活動していました。
- ・対話は少ない印象を受けました。
- ・声が小さく、アイコンタクトも意識できていませんでした。

○ 3 学年より

- ・苦手な生徒がやり方を同じグループの仲間に聞けている所が良かったです。
- ・片方のグループの話し合いは充実していましたが、もう片方のグループの話し合いは生徒たちの言葉数が少なかった。その分、ST が支援している印象を受けましたが、後半は少しずつ言葉数が増えていました。
- ・両グループの土の押し方に違いが出ていたが、隣のグループを見て、より良い方法を真似ている所が良いと思いました。
- ・他の物で播種をしたことがあるのであれば、そのときのことを応用できるようにもっていくと、もっと深い学びにつながるのではと思いました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○ 1 学年より

- ・効率良くできる教材を作成しているのが良かったです。
- ・理論的なアドバイスをできていました。

○ 2 学年より

- ・教師発信の言葉掛けが多すぎると思います。生徒からの報告、連絡、相談が少なかったです。
- ・授業中の見通しを生徒がもてていません。その場、その場での指示になっていました。
- ・似た作業を経験しているためか、生徒一人一人が慣れた様子でした。
- ・全体的に元気がなく、働くための基本的な部分が弱く感じ、普段の生活にも影響が出ている感じがしました。

○ 3 学年より

- ・慣れた手つきで生徒たちが作業をしていたので、教師の指示が言葉ではなく、紙など文字を使った伝達で、どのくらい作業ができるのかも見てみたくなりました。
- ・教師の「確認し合ってください」に対して、指示を受けるまで確認せず黙って作業を進めていました。

作業に集中すると言葉の掛け合いは少なくなるのかと思いました。

- 生徒が考えて行動する前に、指示することが多いと思います。分からないなら質問させるよう流れを作るなどの方策をとった方が良いと思います。
- 種の袋開けといった細かいことでも生徒にさせてみるのはどうでしょうか。
- 「確認お願いします。」→確認する→「ありがとうございます。」の一連の流れがあるといいと思います。
- なぜ消毒をするのか聞いたときに、生徒が分かりやすく説明してくれました。
- 他の質問に対してもきちんと理由を答えられていて良かったです。

3 学年 農業科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	農産物の加工 (ブルーベリージャムの製造)	生 徒	農業科3学年 生徒8名
		場 所	調理室
日 時	平成 30 年 11 月 29 日(木)3～4校時	指 導 者	MT:大槻 ST1:成田

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・ 農産物加工の基礎・基本を理解することができる。
- ・ 食品の衛生についての基礎・基本を理解することができる。
- ・ 協力しながら、作業を進めることができる。

(本時の目標)

- ・ 準備から片付けまでの一貫した作業を進めることができる。
- ・ 衛生に気を付けながら作業を進めることができる。

2 生徒について

- ・ 主体的に作業に取り組む生徒がいる一方で、指示がないと動くことのできない生徒もいる。
- ・ 作業に取り組む姿勢は基本的に真面目である。

3 指導計画

- 第1回 11月29日：ブルーベリージャム製造 1回目(本時)
- 第2回 12月6日：ブルーベリージャム製造 2回目
- 第3回 12月13日：ブルーベリージャム製造 3回目
- 第4回 12月20日：ブルーベリージャム製造 4回目

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

① 主体的な学びについて

- ・ 全製造工程をグループ内で経験させ、この作業の意義を考える。
- ・ 自分の業務を確実に果たすよう促していく。

② 対話的な学びについて

- ・ 製造工程内にあるジャム製造の仕組みをグループ内で考える。
- ・ 考えた内容を発言させて、その内容を記録し、正しい解答を導く。

③ 深い学びについて

- ・ 実際に温度や時間を計測して、ジャム製造の仕組みを理解させる。

5 期待できる指導の効果

- ・ 農業の作業全般について、それぞれの作業の意味を理解する。
- ・ 食品を取り扱う場合の衛生に気を付けるようになる。
- ・ 卒業後、自分で食品加工に取り組み、生活を豊かにすることができる。

※ 授業を振り返って

本校に赴任して初めて食品加工実習を行った。授業を行う上の手続きから道具の確認、調理室の使用方法、帽子やマスク、アルコールの準備などゼロから行ったものもありやや負担に感じる部分もあった。

実際の授業では、生徒が関心をもって取り組んでくれたこと、教師の指示をよく聞き取り組んでくれたこともあり滞りなく実施できた。「主体的・対話的で深い学び」までには、まだまだかもしれませんが、今回の授業を以後の足掛かりにしたいと思う。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 20 分	・ 挨拶 ・ 服装・手洗いの指示 ・ 本時の内容説明	・ 日直が挨拶をする。 ・ 服装、帽子を正した後、手洗い ・ ワークシートの内容確認 ・ 用具の準備	・ 日直に指示する。 ・ 服装チェック後に手洗い指示をする。 ・ ワークシートを配布する。 ・ 本時の目的や内容を説明する。 ・ 用具の準備を指示する。	・ 服装チェック後、手洗いを指示する。 ・ ワークシートを配布する。 ・ 用具の所在について指導する。	・ 使い捨て帽 ・ 手洗い後のアルコール
展開 60 分	・ 原料の計量 ・ 瓶の煮沸消毒 ・ ブルーベリージャム製造 ・ 瓶の消毒終了	・ 1 班 2 つに分かれてブルーベリー、砂糖の計量を行う。砂糖は 3 分割しておく。 ・ 鍋に湯を入れて、火に掛ける。瓶の洗浄後、損傷を目視で確認した上で、鍋に静かに入れて煮沸する。沸騰後、約 30 分計測する。 ・ 鍋にブルーベリーのみを入れ、火に掛ける。火は中火程度で常にお玉でかくはんしておく。 ・ 煮沸した瓶を盆の上に静かに取り出す。 ・ ブルーベリーの皮が崩れてきたら火を止める。	・ 正確に計測させる。 ・ 砂糖はだいたいで 3 分割にする。 ・ 鍋に火を掛けてから、瓶の洗浄・点検を行わせる。瓶を触り凹凸がないのを確かめる。 ・ 冷凍のまま鍋に入れて常にかくはんさせる。 ・ 瓶は清潔な盆に置かせる。 ・ ブルーベリーが沸騰してきたら 1 回目の砂糖を入れる。(アクは随時取り除く) 沸騰するた	・ 風袋重量に気を付けさせる。 ・ MT が瓶の消毒のときは、ジャム製造、MT がジャム製造のときは瓶の消毒にまわる。 ・ この後、作業だけが、やけどの事故が起こらないように生徒の活動を注視する。 ・ 消毒した瓶の取り出しに注意し、湯を切らせる。 ・ 道具を正しく使用しているかチェックする。(例、ゴムべらをお玉のように使用しない)	・ はかり ・ ボール ・ 手袋 ・ ジャム瓶 ・ 木べら ・ ゴムべら ・ 温度計

	・ジャムの充てん ・ジャムの殺菌	・鍋のジャムを瓶に充てんする。 ・蓋をして逆さまに置く。 ・鍋に入れて、殺菌を始める。 ・使用した道具の洗浄をする。	- びに砂糖を入れる。このときに温度を計測する。 ・瓶の口を汚さないように行わせる。 ・逆さまにする理由を考えさせる。 ・殺菌できる理由を考えさせる。	・適切な洗浄の仕方を指導する。	・粉つぎ
整理 20分	・本時のまとめ ・本時の反省 ・挨拶	・<u>グループにより殺菌できる理由を考えさせる。→代表者に発言させる。</u> ・ワークシートの記入を行う。 ・挨拶	・熱によって殺菌されることと糖によって菌の増殖が抑制されることを導かせる。 ・本日の作業の反省 ・挨拶	・本日の作業の反省 ・挨拶	

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	農産物の加工 (ブルーベリージャムの製造)	生徒	農業科3学年 生徒8名
		場所	調理室
日時	平成30年11月29日(水)3～4校時	指導者	MT:大槻 ST1:成田

① 主体的な学びについて

この学校へ赴任して、初めての食品加工実習だった。生徒も初めてということを知った。できるだけ準備から最後の片付けまで生徒自身が行うように指示を行った。一部、時間の関係もあったので、特殊な道具については教師で行った。

ジャム作りとビンの消毒という2つの作業に区分して、生徒が責任をもって取り組めるようにした。消毒の原理を学ばせるために温度計により実際にジャムの温度計測を行わせ、水の沸点よりも高い温度になることを示した。

② 対話的な学びについて

作業学習の中で普段から言葉掛けについて指導されているところである。それを常に意識させるのと準備や片付けで自分が何をやるのかや誰が何をやるのかを意識できるようになり、効率良く時間を上手に使って作業を進めていくことができるものと思う。今回は、その部分の指導を行ったが十分ではなかったので、今後はそれを生かして行きたいと思う。

③ 深い学びについて

教師からの発問により、何故そうなるのかということを考えさせた。食品加工は生物や化学の基礎的事項の応用だったり、生活に密着したものが多かったりするので、学習したことのない事項でも教師側からの質問をきっかけとして考えられるようにした。また、ジャムの温度を計測させることにより、水の沸点よりも高い温度に達することも見られるようにした。

④ STの活用の仕方について

STとの打ち合わせは特に行わなかったが、熱湯を使い消毒することもあり、安全に関わる部分について特に注意するようにした。また、MTがジャムに関わっているときにビンの消毒、ビンの消毒に関わっているときはジャムに関わってもらうなど対角線的な配置になるようにも注意した。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	農産物の加工 (ブルーベリージャムの製造)	生徒	農業科3学年 生徒8名
		場所	調理室
日時	平成30年11月29日(木)3～4校時	指導者	MT:大槻先生 ST1:成田

① 主体的な学びについて

生徒たちにとって身近なジャムをすることによって、導入の説明のときから製造工程を真剣に聞くことができていた。作業中では、MTの事前説明と工程表を基に、生徒一人一人が行うべきことに確実に取り組むことができた。特に、ビンの消毒では、やけどをしないように安全に留意することを事前説明したことで、生徒同士が積極的に声を掛け合いながら熱湯からビンを取り出すことができた。

② 対話的な学びについて

ジャム製造において、殺菌することで長期保存できる理由を生徒同士で話し合う活動を行った。日頃の作業学習でも話し合い活動を取り入れているため、生徒一人一人が積極的に発言することができていた。

調理器具の準備や片付けでは、MTやSTの言葉掛けを必要とする場面が多かったため、事前説明のときに役割分担をして行うことを確認する必要があったと感じた。

③ 深い学びについて

とろみのあるジャムの沸点が水の沸点よりも高いことを説明だけではなく、実際に温度計で測って目で確認させることができた。また、生徒から「ゼリーやヨーグルトの沸点も水より高いかもしれない。」など、獲得した知識を利用して、新たな疑問を生み出すこともできていた。

④ S Tとしての動き方について

事前の打ち合わせにおいて、MTがジャム作りに関わっているときはビンの消毒、MTがビンの消毒に関わっているときはジャム作りに関わるように決めていたことで、事故なく安全に指導することができた。

衛生面では、一部の生徒がマスクを鼻までしっかり覆っていなかった。今後はMT、STともに指導を徹底していく必要がある。

授業参観者アンケート

授業者：大槻 啓二
「主体的・対話的で深い学び」についての評価
○1 学年より ・グループ活動を通じて、生徒がジャム作りの製造工程を理解できるように促しながら授業を進めていたので良かったと思います。 ・ワークシートを使って再度、ジャム作りの製造工程を振り返り、生徒の理解をより深めていて良かったと思います。 「主体的な学び」 ・グループに分かれてそれぞれが仕事を見つけて行っていたので良かったと思います。しかし、生徒それぞれに責任をもたせるのであれば、明確な役割分担があった方が仕事面や自主性を育てるのにも良いかと感じます。これについては、学習のねらいをどこにしているのかによって変わってくると思います。また、各自で仕事をさせるのであれば、報告や確認は欠かさないことを事前のルールとして伝えても良いかと思います。 「対話的な学び」 ・グループでのまとめを行うのであれば、最後の机の配置についてもグループで座らせるなどの配慮が必要であったと思います。(机が小さかったため、グループが分かれていました。) ○2 学年より ・MT の説明後、すぐに全員が主体的に動くことができていました。(何もしない生徒がいませんでした。) ・グループで話し合っ手順の確認をしていたことが良かったです。 ・教師からの指示が多く、自分で考えて行動するより、指示どおり行動することの方が多いように感じました。 ○3 学年より ・殺菌についての発問で、色々意見交換できていましたが、知識不足のため難しい点がありました。しかし、学習を繰り返すことで知識の獲得につながると感じました。 ○管理職より ・興味関心がある題材であることと作業手順が明確になっていることで主体的に取り組むことができていました。 ・殺菌や長期保存の原理を学ぶことは深い学びにつながる大切な学習であると思います。
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
○1 学年より ・初めての加工作業でしたが、スムーズに作業をしていて生徒同士が声を掛け合い、ジャム作りを行っていたので良かったと思います。

- ・安全に気を付けて授業を行っていたので良かったです。
- ・全て MT がやろうとしている様子が見られたため、内容によっては ST に任せても良いのではないかと思います。(片付けも MT が対応していたため、ST をお願いするなど)
- ・MT が話しているときの生徒の指導は、ST の巡視で指導する必要性があると感じました。(話をしているのに何かを書いている、体の向き、視線、姿勢、手の位置など)

○2 学年より

- ・衛生面での意識付けが弱いと感じました。マスクで鼻を覆っていない人や帽子から髪が出ている人、コンロに落ちたブルーベリーを鍋に戻すなど、食品加工を行う部分が薄れているように思います。
- ・「沸点」「充填」「攪拌 (かくはん)」などの言葉の意味について、生徒に細かく確認する必要があると思いました。

○3 学年より

- ・食品加工 (製造) の基本的な流れの学習として取り扱うことで、意識付けとして (卒後の作業にも) 良いと感じました。

○管理職より

- ・MT は、瓶を逆さまにする理由を生徒に質問したが、授業時間内にその理由を説明しなかったため、時間内に説明をする必要があったと思います。

1 学年 家庭総合科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	販売会に向けて製品を作る (KYT 安全な作業について)	生徒	家庭総合科1学年 生徒7名
		場所	縫工実習室
日時	平成 30 年 11 月 28 日(水)5～7校時	指導者	MT:小林 ST1:亀田 ST2:出村

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・体験的な学習や生産学習を通して勤労の体験を豊かにし、その意義を理解させる。
- ・安全に留意しつつ、仲間と協力して作業することができる。

(本時の目標)

- ・仲間と意見を交わし、互いの意見を認め合うことができる。
- ・安全に対する意識を高め、安全行動目標を決定することができる。

2 生徒について

- ・他の学習でブレインストーミングを学習しているが、意見が対立したときに相手の気持ちを考慮した発言を苦手としている生徒が多い。
- ・発言を得意とする生徒が率先して発言し、その流れに乗るように周りの生徒が発言することが多い。

3 指導計画

第1回 11月28日 : KYT 安全な作業について① (本時)

第2回 12月19日 : KYT 安全な作業について② ※KYT は危険予知トレーニング

第3回 3月15日 : KYT 安全な作業について③

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

① 主体的な学びについて

- ・安全な行動と危険な行動を考え、答えを導き出す。
- ・グループ内で決められた役割を果たす。

② 対話的な学びについて

- ・互いに意見を否定せず、グループ内で話し合いを進める。
- ・グループ同士で考えた情報を交流し、必要な情報を集める。

③ 深い学びについて

- ・作業学習で使用する道具を用いて例示し、身近な状況の安全について考えさせる。
- ・作業学習でこれまでに起きた事や起こりうる状況を想起させ、授業を展開する。

5 期待できる指導の効果

- ・互いの意見を認め合うことができるようになる。
- ・安全を意識した行動ができるようになる。

※ 授業を振り返って

生徒が初めて学習する内容だったが、危険について考える場面で身近な内容を設定したことや生徒が実演できる環境を作ったことで、想像しやすくなったと思われる。そのため、主体的に考えられるようになり、全員が自分の意見を持って発言することができた。生徒だけの対話的な場面では全員の声が小さかったのだが、意思の疎通は図られており、グループ内でまとめることができた。今後は作業の動きの中で短い時間の安全学習を取り入れたり、安全意識を高める言葉掛けを行ったりすることで、深い学びにつなげていきたい。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	・ 始業挨拶 ・ 本時の説明	・ 日直に合わせ挨拶する。 ・ 本時の学習内容と目標、流れについて理解する。 ・ 商品企画会議と同様に話し合いの心得を確認する。	・ 日直に号令を掛けさせる。 ・ 本時の学習内容と目標、流れについて説明する。 ・ 話し合いの心得を掲示し、話し合い時のルールを知らせる。	・ 気を付けをしているか、机上が整理されているかを確認する。 ・ 机間巡視を行う。 ・ 質問されたときは助言をする。	
展開 105分	・ 危険予知訓練 (KYT) ・ 画像から危険を探す ・ KYT 開始 ①現状把握	・ 危険予知訓練 (KYT) とは何か、なぜ必要かを知る。 ・ 訓練シートを使用した KYT の方法を知る。 ・ 4 ラウンド法の KYT の体験学習をする。 ・ KYT シートを見る。 ・ 各自で画像の危険なところを見付けて記入する。 ・ グループの役割を決める。 ・ <u>グループで話し合いをする。</u>	・ 安全意識を高めるための活動であることを説明する。 〈Kiken Yochi Training〉 ・ 訓練シートを見させて、具体的に説明する。 ・ 例題として、教師主導で考えさせ、全員で訓練をする。 ・ 生徒の意見を P C + プロジェクターで投影する。 ・ KYT シートを配布する。 ・ 画像の危険個所を見つけて書かせる。 ・ 4 人グループでの進め方やルールの確認をし、どのような役割が必要か問いかけ、役割を決めさせる。	・ 机間巡視をする。 ・ 質問されたときや記入や話し合いが苦手な生徒にも様子を見て助言をする。	・ ワークシート ・ P C ・ プロジェクター ・ ワークシート

			・各自の考えた危険なところを 発表し、意見交換する。 ・グループで5つ以上危険な ところを挙げる。		
	②本質追求	・<u>意見をまとめて一番危険な場所 を決める。</u>	・グループで①の一番危険な場 所を決めるように促す。		
	③対策樹立	・各自で安全対策を考えて記入す る。 ・<u>グループで話し合いをする。</u>	・現状把握と同様に②の安全対 策を各自で考える。 ・同様にグループで意見交換し、 5つ以上対策を挙げる。		
	④目標設定	・<u>意見をまとめ、最適な安全対策を 決める。</u>	・グループで③から最適な安全 対策を決めるように促す。		
	・目標確認	・端的なフレーズにする。 ・グループ全員で指差し呼称する。	・決定した対策を単語や短い文 章に要約できるように状況に 応じて助言をする。 ・全員で指差し呼称させる。 「〇〇ヨシ！」 「ゼロ災でいこうヨシ！」		
	・グループ間交 流	・<u>グループ間交流をする。</u>	・担当者に安全目標とグループ で良かったところ、難しかっ たところを発表させ、講評を	・生徒の様子観察をする。	

			伝え、互いにどのように感じたかを発問する。		
整理 10分	・振り返り ・まとめ	・自己評価を記入する。 ・<u>グループ内で意見交流する。</u>	・自分の意見を言えたか、仲間の意見を認め合うことができたか、などを評価し、記入させる。 ・各自の感想を発表させ、教師からの評価を伝える。 ・本時の学習プリントを全て回収する。	・記入や話し合いが苦手な生徒にも様子を見て助言をする。	・ワークシート
清掃 10分	・簡易清掃	・使用した場所のみ清掃する。	・生徒に役割分担を決めさせる。 ・各自、担当箇所の清掃をする。		
反省 5分	・次時予告 ・終業挨拶	・次回の学習内容を知る。 ・日直に合わせ挨拶する。	・本日の振り返りをする。 ・次回の学習内容を伝える。 ・日直に号令をかけさせる。		
作業 日誌 15分	・日誌を書く ・更衣	・教室へ移動する。 ・本時を振り返り作業日誌を書く。 ・日誌を提出する。 ・着替える。	・教室へ移動し日誌を書かせる。 ・個別に提出させ、評価を口頭で伝える。 ・制服へ更衣を促す。		

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	販売会に向けて製品を作る (KYT 安全な作業について)	生徒	家庭総合科1学年 生徒 7 名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 30 年 11 月 28 日(水)5～7校時	指 導 者	MT:小林 ST1:亀田 ST2:出村

① 主体的な学びについて

危険な行動を予測し、それに対する安全な対策を導き出す危険予知訓練（KYT）の学習を行った。前半に例題のように体験学習で訓練の手法を学び、すぐに同様の課題に取り組んだことでいつもよりも早めに自分の意見をワークシートに書くことができていた。発言を苦手としている生徒もワークシートに書いたことで、発言につなげることができており、全員が1回以上発言することができた。また、グループ内で決めた司会、書記、発表、司会補助のそれぞれの役割を意識して活動することができた。

② 対話的な学びについて

グループ内で役割を決めるときには、以前よりも速く早く決めることができた。これは、体験学習で発言していた環境が好影響を与えたように感じる。その後のグループ内での話し合いでは、他の学習で経験しているブレインストーミングを取り入れたことで、互いの意見を認め合い、生徒だけで発言がしやすい環境を作ることができていた。また、生徒の振り返りでは、「いろいろな意見や自分とは違う考え方があることが分かった。」という記述があり、KYT を通した対話的な学びができていたと考える。

③ 深い学びについて

作業学習で使用する道具を用いて例示し、生徒が実演できる環境を作ったことで、机上で考えるだけでなく、作業の中の自分の動きとして考えることができたようである。一部の生徒は、ワークシートの情報だけで危険な状態を想像できるのだが、多くの生徒は、ワークシートだけでは安全に対する考えを深めるのは難しかったため、記述や発言が出にくい状況だった。道具を持ち、ワークシートの状態を自分で体験することで、理解が深まり、想像に結び付き、記述や発言できるようになった。今後も作業学習の中の活動と結びついて深い学びができるように、生徒が想像しやすい環境を設定していきたい。そして、危険な状況を予測し、安全に対する意識を高めて活動できるように指導していきたい。

④ STの活用の仕方について

今回は初めての学習内容であるため、自分の意見をまとめたり、発言したりすることが苦手な生徒が流れに乗って活動できるように、生徒の様子を見て助言してもらった。MT の指示をかみ砕いて説明してくれたことで生徒は理解が深まり、自分の意見を固めることができていた。また、生徒自身が実演することを促してくれたことで、生徒はその状況を体験することができ、体験したことで状況判断に結び付けることができていた。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	販売会に向けて製品を作る (KYT 安全な作業について)	生 徒	家庭総合科1学年 生徒7名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 30 年 11 月 28 日(水)5～7校時	指 導 者	MT:小林 ST1:亀田 ST2:出村

① 主体的な学びについて

主体的な話し合いを行うために、まずデモンストレーションで1回目の話し合いを行ったことが2回目には生徒のみで主体的な話し合いをすることにつながった。また、自分の意見に自信をもてない生徒が多いため、促しの言葉を掛ける、実際に同じ状況を演じてみるなどの言葉掛けを多めに行った。

② 対話的な学びについて

自分たちから会話を始めるきっかけをつかむのが課題であり、どこまで口を出さずに見守るかという点に意識を向けて ST を行った。話し合いの活動の場合、主体的な学びと対話的な学びに関する支援は相互に関連していることが多いため、自発的な意見を言うための言葉掛けを個々の生徒の課題に合わせて行った。

③ 深い学びについて

生徒の実態によっては、今回の危険予測を作業のどの場面で活用するのは難しい生徒もいるが、MT は具体例を出すことで、自分の事に置き換えて考えることができた生徒もいた。

また、「危険を予測すること」を「先を見通すこと」と言い換えると、今回の課題解決と同じ思考の仕方を用いて、日常生活の色々な場面で解決できることがあるため、深い学びにつなげることができる。

④ S Tとしての動き方について

どこまで口を出さずに見守るかという点に意識を向けて ST を行った。ただ、2回目の話し合いを生徒のみで行うことができたことから、支援の頻度をもう少し見極め、押さえてもよい段階であると感じた。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	販売会に向けて製品を作る (KYT 安全な作業について)	生 徒	家庭総合科1学年 生徒7名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 30 年 11 月 28 日(水)5～7校時	指 導 者	MT:小林 ST1:亀田 ST2:出村

① 主体的な学びについて

始めに提示された KYT シートではあまり具体的な意見や考えが思い浮かぶ様子が見られなかった。実際に道具を使う様子を見たり言葉掛けしたりすることで少しずつ考えが出てきて、2 回目の KYT シートでは声を掛けなくてもそれぞれ危険予測をすることができていた。

② 対話的な学びについて

グループでの話し合いでは、お互いにすぐに発言をすることはできなかった。生徒の様子を見ていると何をするのかわからないわけではなく、話すきっかけやどのようなことから発言すべきかわからないようだった。主体的な学びのときと同様で、1 枚目のシートよりも 2 枚目のシートの話し合いは指導者の支援がなくても話し合いを進めることができていた。

③ 深い学びについて

道具を使用したことで、生徒がより具体的に危険を予測することができていた。

④ S Tとしての動き方について

机間巡視をしながら助言を行い、意見を引き出すように努めたが、適切な助言だったか、また質問される前に助言してしまうことがあり、手助けしすぎだった部分があった。

授業参観者アンケート

授業者： 小林 和幸

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○ 1 学年より

- ・ 個で考える場面が設定されていました。→危険な行動について色々考えることができていました。
- ・ 個で考えたことを基にスムーズにグループでの話し合いができていました。（対話的な学び）
- ・ グループでの対話的な学びで個々の考えも深まりました。
- ・ グループ同士で情報の交流ができていました。
- ・ グループ内で役割の分担ができていて、その役割を個々が果たしていました。
- ・ 準備物や説明が丁寧なので、生徒の興味を引き付けることができていました。
- ・ 実際の就労でもありえる場面設定でよかったです。
- ・ 「なぜ」という問いがあり考えを深めることができていました。

○ 2 学年より

- ・ 施設見学や学科反省の経験を基にして、安全の振り返りにつなげるという流れが、生徒にとって分かりやすい設定だったと思います。
- ・ 視覚提示と動作化により、生徒が理解しやすい環境で授業が進んだと思います。また、生徒の意見がリアルタイムで表示されるので、生徒の主体的な参加意識も高まり、聞き手の生徒も見やすかったため良かったと思いました。
- ・ 話し合いの声は小さかったものの、各自が自分の役割を意識して課題に沿った意見を出し合っていたので良かったです。
- ・ 危険な状況に気付く範囲が広い生徒と、生活体験が浅くて狭い生徒の差があったように感じました。ST によるフォローが必要かと感じましたがどうでしょうか。逆に言えば、そこが対話的学習で、各自の経験を基にした考えを交流することで、グループ全体が深まるポイントでもあると思います。

○ 3 学年より

- ・ 普段何気なくやっていることについて具体的に考える機会になったと思います。

「主体的な学び」

- ・ 荷物の梱包を解く場面、棚の高いところにある物を椅子に上がって取り出す場面など、日常生活の中で遭遇する普通の行動場面を取り上げて「安全に行動するには、どのようにすると良いのか」を考えさせている。「安全な行動」の対極には「危険やけが」が位置しており、生徒にとって自分のこととして考えやすく、主体的に考えて学ぶことにつながっていました。

「対話的な学び」

- ・ 荷物の梱包を解く場面に対する安全な行動の仕方について、生徒各人の意見を発表する際に自信がないのか、声や言葉に元気を感じ取ることができなかった。しかし、記録シートを用いてグループで意見を出し合ったり、全員の意見をまとめたりする場面では、意見の出し方に自信を感じられるようになってきました。また、意見を出し合うだけの話し合いよりも、見て分かりやすい項目が印刷されているワークシートなどを用いて話し合いを進める方法のほうが、生徒にとって対話的な学びを進め

やすいと考える。

「深い学び」

- ・自分の意見を基にして考えることや仲間の意見を聞きながら考えること、考えを深める方法としてどちらも必要ですが、後者の進め方は、仲間の意見には自分一人では考えられない内容が含まれているので、いろいろな考え方を知ることができ、それが自分の考え方を深めようとする姿勢を呼び起こすことにつながっていくと思います。
- ・今回、「棚の高い所にある物を椅子に上がって取り出す場面に対して安全に行動するにはどうするか。」という問題提起に対して、「その行為中に周りの人がぶつかることも考えた。」という意見のグループがありました。その点は想定外だったとの感想を指導者側が率直な気持ちとして表したことで、発表した生徒側も高揚感に浸ることができたと思われ、また、聞いた生徒側にとっても「そのように考えることもできるのだな。」と感じたと思われます。このことは、次の場面では深く考えることにつながっていくものと信じています。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○1 学年より

- ・生徒の実態に合わせた声掛けをしていて良かったです。
- ・刃物の危険性を実演させていて良かったです。
- ・考えさせる時間を保障していました。
- ・ブレインストーミングから個々の考えや意見を多く出させ、4ラウンド法のグループへの話し合いへと系統立てて授業展開されていたので、とても分かりやすかったです。

○2 学年より

- ・4ラウンドの「現状把握」「本質追求」「対策樹立」「目標設定」は生徒には難しい言葉のように思いました。「気付く」「見つける」「動く」「予想する」のように平易な言葉に置き換えたかどうかと思いました。生徒によっては「まわりVSじぶん」とプリントにメモしていました。分かっているなと感じました。

○3 学年より

- ・発言だけでは言っている内容が具体的に分からないときに、前に出て、道具を使って実際にさせることで、発言内容が明確になっていたと思います。
- ・発言に消極的な生徒への声掛けをもっと工夫すると生徒が発言しやすくなると思います。（声の抑揚、ボリュームなど）
- ・生徒の斬新な意見が良かったです。色々考えているだと思いました。
- ・授業は尻上がりに快活さを感じられるように進んでいったが、グループのまとめを発表する場面で、発表した内容や言葉遣いに対して声を出して笑う生徒がいたのには驚かされた。使った言葉がそぐわないと感じたためであろうが、せっかくグループで意見を出し合ってまとめた内容である。この授業の始まりから「お互いに意見を否定しない」、「どんな意見でも出してみよう」、「どの意見も間違っていない」と、絶えず指導者が生徒に対して言葉掛けを行って授業を充実したものにしたいの思いを感じる取ることができた授業であっただけに、実に残念でならないです。

2 学年 家庭総合科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて製品をつくる	生 徒	家庭総合科2学年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 30 年9月 25 日(火)2～4校時	指 導 者	MT:村瀬 ST1:田中 ST2:出村

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・見通しをもちながら作業を行うことができる。
- ・一つの目標に向かって、協力して作業を進めることができる。

(本時の目標)

- ・道具を正しく使うことができる。
- ・ティッシュケースを作る工程を理解するための工夫をすることができる。

2 生徒について

- ・全員で時間の見通しをもつための工夫をしながら作業を進めることができる。
- ・仲間への言葉遣いに課題がある生徒が多い。
- ・見通しや全体像を把握することが苦手である。
- ・覚える工程が多い作業では、必要な作業工程を忘れている生徒が数名いる。

3 指導計画

- 第1回 9月19日 : 紙すき、縫工
 第2回 9月25日 : 縫工(本時)
 第3回 9月26日 : 紙すき、縫工

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

① 主体的な学びについて

- ・数学で作成した型紙を使用し、一人で始めからティッシュケースを製作する。
- ・ティッシュケースの布を正しく折るために、どの点を工夫するのか考えさせる。

② 対話的な学びについて

- ・準備するものはあらかじめ伝え、全員で協力して行うように設定する。
- ・作業台にはペアで座らせ、分からないことはペアで確認する環境を作る。
- ・ティッシュケースの折り方は、ペアで確認し、正しくできるように工夫させる。

③ 深い学びについて

- ・数学で行った図形を、布を使って立体化し、全体像を想像しやすくする。
- ・長さを測ることや布を裁断することを一通り行わせ、一つ一つ丁寧に行うことの大切さに気付けるようにする。

5 期待できる指導の効果

- ・作業学習で行っていることの全体像を予想する力を身に付けられる。
- ・ものづくりをする上で、長さを正しく測ること、丁寧に物事を進めていくことの大切さに気付く。
- ・どのような仕事でも、様々な工程があること、家庭総合科では、全員で一つの製品を仕上げていくことを知る。そして、一人一人の力を高めていくことで、良い製品が仕上がることに気付く。

※ 授業を振り返って

数学と関連付けて行うことで、生徒自身が製品を作る流れを理解できたことはよかった。しかし、ある程度工程を理解している生徒と支援が必要な生徒がいる中で、どちらも同じような支援をしていたことがあった。生徒が考える機会を与えずに、支援をしていることが多かったため、今後は、支援の量をなるべく減らし、必要なときには生徒から発信できるような環境を作っていきたい。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	- 挨拶 - 本時の学習内容	- 日直が挨拶をする。 - 本時の学習の流れを確認する。	- 一列に並べているか、姿勢を正しているか確認する。 - 本時の流れを板書する。 - 準備が終わっていないければ、全員の準備が終わり次第、報告するように伝える。	- 生徒の動きを見て、教師も姿勢を正す。 - 必要な道具が準備されているか、巡回して確認する。	
展開 125分	ティッシュケースの作り方の説明	- 作り方の説明を聞く。 <u>ティッシュケースの折り方をペアで確認する。</u>	- プリントで作り方を説明する。口頭で伝えたことをプリントに書き込むように指示する。 - ティッシュケースの折り方をペアで確認する。ペアの中で必ず一度は自分で折ることを指示する。分からないときには、どのようにしたら理解できるかを考えて工夫するように伝える。 例：図を見る。 仲間をよく見て折る。 教師にゆっくり説明してほしい旨を伝える。 等	- 巡回しながら、理解できているか、メモをしているか確認する。 - 折り方の例を見せたり、理解できていない生徒の近くでゆっくり実演したりする。言葉掛けする場合は、どのように工夫したら理解しやすいかを聞き、実践させる。	- プリント - 折り方の画用紙 - 数学で解体したティッシュケース×4

	・ティッシュケース作製	・ティッシュケースを作製する。 ①布の裁断 ②ミシン準備・試し縫い ③直線縫い×2 ④アイロンがけ ⑤印付け ⑥折り ⑦アイロンがけ ⑧直線縫い×2 ⑨返し ⑩アイロンがけ	・作業を進める上での決まりを守って、作業ができるように指示する。 *一つの工程が終わったら、教師に確認をしてもらう。 *間違えたときには、対処法を教師に伝えてから実践する。 *工程で分からないことがあるときには、教師に確認する前に仲間に相談する。	・大きな間違いをして気付いていない場合は、気付けるように言葉掛けを行う。 ・アイロンがけを行う生徒がいるときには、必ず教師が一人見るようにし、安全面に配慮する。 ・直線縫いを確認するときには、返し縫いがされているかを必ず見る。 ・定規の使い方が正しいか確認し、適切ではないときには、一緒に確認してから使わせる。	・裁縫道具×8 ・ミシン×8 ・布 ・アイロン×3 ・定規×8
整理 20分	・片付け、清掃	・<u>時間になったら、道具を片付けて、掃除を行う。</u> ・反省をする。	・声を掛け合い、効率的に掃除をするように指示をする。 ・一列に並べているか確認する。 ・作業の中で気付いたことを伝える。	・生徒の動きを観察し、効率的に動いている生徒を具体的に褒める。 ・一列に並べているか確認する。 ・作業の中で気付いたことを伝える。	・プリント

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて製品をつくる	生徒	家庭総合科2学年 生徒6名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 30 年9月 25 日(火)2～4校時	指 導 者	MT:村瀬 ST1:田中 ST2:出村

① 主体的な学びについて

ポケットティッシュケースを型紙から自分で作製し、一つの製品に仕上げるという取り組みは、自分で工程を確認して取り組むことができていたため主体的になったと考える。しかし、工程表を見ながら製品を作るという学習が初めてだったこともあり、教師の助言が多くなり、自ら分からないことを仲間や教師に聞くという場面が少なくなってしまった。普段の授業の際も、助言が多いことがあるので、自分から解決する力を身に付けさせるためにも、できるだけ少ない助言で生徒が活動できる場面を設定していきたい。

② 対話的な学びについて

ポケットティッシュケースの布を折り畳む工程で、ペアで図を参考にして折り方を実践させたが、分からない点を2人で解決しようとして対話をしながら学習することができた。折り方が分からない相手への説明の仕方で悩む生徒もいたが、相手に説明することで理解を深めることもできたと考える。しかし、布を選び終えたあとから、自分の作業に集中してしまい、ペアで確認し合いながら製作することにはつなぐことができなかった。工程をある程度説明してから取り組ませることで、ペアとしての役割が発揮されると思うため、対話的な学びを行う際は、事前に情報を与えたり、視覚的に理解しやすいものを準備したりするなどの工夫をしていく。

③ 深い学びについて

今回は、数学の図形と長さの学習で作った型紙を使用して、ポケットティッシュケースを作製した。普段の作業学習では、型紙を使って布を裁断する工程は、教師が行っていたため、今回学習したことで、縫工製品の全工程を知ることができたと思う。また、自分たちが仕事を行うときには、与えられた仕事の前後には必ず関わる人や支えてくれている人がいることを知るきっかけになった。しかし、縫工製品を作ることに限っては全工程を知ることができたが、作った製品の価格設定の仕方や実際に販売されている製品はどのような過程を経てお客様に届くのかという流れを理解している生徒は少ない。今後は、数学を使って、実際に作ったポケットティッシュケースの値段がいくらになるか、流通とはどのようなものなのかを学習する場を作っていきたい。

④ STの活用の仕方について

今回は、STとの打ち合わせが少なかったことにより、支援の仕方に共通理解を持たないまま進めてしまった。事前に細かい打ち合わせを行い、生徒が力を発揮して製品を作ることができるようにすべきであった。今後は、どの生徒にどのように支援をしていただくかを事前に伝え、生徒の力を伸ばせるような授業展開をしていきたい。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて製品を作る	生 徒	家庭総合科2学年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成30年9月25日(火)2～4校時	指 導 者	MT:村瀬 ST1:田中 ST2:出村

① 主体的な学びについて

布の折り方がうまく理解できない様子だった。プリントを見て折り方を考えるよう促したが、生徒はうまく理解できていなかった。どのように考えるとわかりやすいか S T として伝え方を考える必要があった。

② 対話的な学びについて

2人で折り方の仕組みを考えることが良かった。一人では理解できないことも対話することで理解することができる場面が見られた。

③ 深い学びについて

布には縦と横の向きがあり、深い学びという点においては、出来上がりをイメージするために、布の縦・横や型紙を置く向きに注意するようあらかじめ伝えても良かったのではないかと感じた。

④ S T としての動き方について

アイロンがけをしている生徒を見ていないこともあり、安全面への配慮に欠けた。また、ST として、事前にもっと指導案を読み込んだり、質問したりして確認すべきであった。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて製品を作る	生徒	家庭総合科2学年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成30年9月25日(火)2～4校時	指 導 者	MT:村瀬 ST1:田中 ST2:出村

① 主体的な学びについて

布を折るときに「プリントの折り方の説明に従い、布を使って同じように折る」という工程が難しい生徒がいた。ダミーの布はたくさんあり、周囲を見れば一度、別の布で練習してから本番用の布を折るなどの工夫ができたはずだが、生徒は気が付かなかった。そのため、STが製品用の布を使って、一緒に折り方を確認してから折り直させて、プリントのとおり折れているかを確認させた。

慣れてくると自分一人でできていたので、始めの段階で指導すべきか迷うところであるが、最初から生徒に任せるのではなく、工程を理解させた後の動きとそれまでかかった時間で、その生徒の主体性を評価していく方が現実的であると感じた。

② 対話的な学びについて

プリントを見ながら、2人で折り方を考えた。一人の力では理解できないことも、二人で話し合うことを通して、折り方などを理解することができていた。

④ 深い学びについて

「プリントなどの補助資料を見ても、布の折り方が分からない場合にどう対処するか」、しばらく介入しないで見守っていたが、生徒は3分程度、試行錯誤した後どうすればよいか、指導者に質問してきた。このことからここでは、「深い学び」を「先を考えた行動ができる」と押さえ、そのための視点として、「どこまで時間を取って、生徒自身が考えるか」、「できないときや分からないときに自分はどうすべきかをいかに生徒に考えさせるか」という2点で考えると、生徒の一連の動きから、その力の基本ができかかっていると感じた。

④ STとしての動き方について

担当の生徒を中心に観ていたが、他の生徒に視野を広げて観察する必要もあった。それは「机上の整理(道具の置き方など)」ができていなかったため、生徒の作業効率と安全の確保や確認が弱かったと感じたからである。作業に入る前に、いきなりではなく、自分の作業スペースの確認をさせるように言葉掛けすればよかった。

授業参観者アンケート

授業者： 村瀬 はるな

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○1 学年より

- ・ティッシュケース作りを教え込むのではなく、生徒がプリントを見ながら作成方法を考え、分からないことを聞きながら理解していく過程は、主体的で対話的で深い学びになっていたと思います。
- ・工程表、板書があることで、大人に頼る機会は減っていました。
- ・生徒同士で褒め合っている姿はすばらしかったです。
- ・ペアにすることで、必然的に確認などをしなければならないので、主体的、対話的になっていました。
- ・教科等横断的な取り組みの効果が出ていました。

○2 学年より

- ・分からないことを教師に聞く前に仲間同士で聞くように指導していたが、実際にそのような場面は多くなかったです。今後、工夫が必要ではないかと思います。(対話的)
- ・数学で展開図を採寸したことにより、深い学びになっていました。
- ・黒板に書いてある工程を確認しながら主体的に取り組んでいました。

○3 学年より

- ・小グループにすることによって、お互いに意見交換しやすくしていた。
- ・農業科でも制作を取り入れていきたいと思っているので、大変参考になりました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○1 学年より

- ・つながりを意識した学習として事前に数学で作成した型紙を使用することで見方や考え方など学習の充実が図られていたと思います。
- ・折り方をペアで確認する展開では、生徒たちが各々考えている様子が見られました。また、生地を選ぶ際にも完成をイメージして選ぶことができおり、学習に能動的に取り組めていたと思います。
- ・実際の作業の中では難しいと思いますが、一人一人の実態に応じた手立てや仕掛けを工夫することも必要かと思います。生徒の中には、プリントからイメージが難しい生徒もいたと思います。もう一工夫あると実態に応じた深い学びになるかもしれません。
- ・「一人で作成」とあるが、失敗しないための手立てが多く、社会に出てからのことを考えると、ここまで親切ではない状況が考えられます。教師からの無意識なヒントや支援が多かったです。日常からの工夫があれば意識する機会が増えると思います。
- ・失敗する前に教師が無意識に支援していました。
- ・生徒が言葉ではなく目線で訴えたときに、教師が無意識に察して動いていました。
- ・「報告」が流れの中でのものになっていました。(歩きながら、座ったまま、遠くから)卒業後の社会生活を意識して、報告について必要性の理解の深化が乏しくなると思います。
- ・「工夫」を共有していない教師が「自分で使いたい物」など無意識に伝えていました。
- ・時間の意識が乏しかったです。自ら設定するくらいの状況が必要だと思います。

- ・完成させることだけが目的ではありません。仕入れや仕入れ価格、販売価格など、販売に関わる部分の意識があれば売るためにどこを工夫するかなど、競争意識が生まれると考えます。また、デザインの工夫などアイディアの出し方の工夫まで発展できたらより良いと思います。

○ 2 学年より

- ・作業学習の時間は、卒業後の就労を想定し、意識して展開していることが良かったです。（さん付けなど）
- ・数学と関連付けたことが良かったです。

○ 3 学年より

- ・一つ一つの工程の確認をしっかりしていたことは、良かったと思います。最終的には、報告なしでもできることになれば、もっと良いと思います。
- ・折り方を間違えたときに、再度考えさせ、報告させるところが良かったと思います。

3 学年 生活家庭科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	学校祭へ向けて	生 徒	生活家庭科3学年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 30 年 11 月 8 日 (木) 2～4校時	指 導 者	MT:木田 ST1:石川 ST2:青山

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・袋詰めやポスター作りなど、製品を作る以外の作業も丁寧に行うことができる。
- ・製品の名前や使い方、特徴などが分かる。

(本時の目標)

- ・ポスターを作る意味を考え、取り組むことができる。
- ・仲間と話し合いをしながらポスターを作ることができる。

2 生徒について

- ・多くの生徒が、作業に対して一生懸命行おうとする気持ちを持っており、目標を達成しようとする意欲は高い。
- ・指示を聞いておおむね理解し行動できる生徒から、行動するまでに時間がかかる生徒まで幅広い実態の生徒が在籍している。
- ・言葉掛けを行うことによって、丁寧さや素早さを意識することができるが、時間が経つと忘れてしまう生徒が多い。

3 指導計画

- 第1回 11月 7日：製品の名前や特徴について知る
 第2回 11月 8日：ポスター作り（本時）
 第3回 11月12日：ポップ作り
 第4回 11月13日：袋詰め、シール貼り
 第5回 11月14日：接客練習

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
 - ・ポスターを作る意味やポスターに載せる情報を一人で考える時間を設ける。
- ② 対話的な学びについて
 - ・ペアで話し合いや確認をしながら作業を進めさせる。
- ③ 深い学びについて
 - ・1、2年次に経験したことを生かして活動できるように促す。

5 期待できる指導の効果

- ・活動に対する意味や意義を考えながら作業に取り組むことができる。

- ・相手の気持ちや知りたいことを考えて、情報を提供したり話をしたりすることができる。

※ 授業を振り返って

ペアで活動することによって、普段仲間に任せてしまうことが多い生徒も自分の役割を果たすことができた。

話し合いをしながらポスターの完成を目指したが、細部まで話し合いがされていなかったグループでは、ペンの色の使い方や文字の大きさに統一感が無いものになってしまった。話し合いのときに、ポスターに記入する内容だけでなく、書き方についても確認すべきだった。また、時間の使い方がうまくいかず、話し合いが十分にできなかった生徒もいたため、時間の配分ができるように継続して指導していく必要があると考えた。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	- 集合 - 挨拶 - 本時の学習内容について	- 活動に必要な道具を持って集合する。 - 日直が挨拶をする。 - 本時の学習内容を確認する。 <u>清掃の開始時刻を話し合って決定する。</u>	- 活動に必要な道具をあらかじめ提示し、用意するように伝える。 - 生徒が姿勢を正しているか確認し、挨拶をする。 - 本時の学習内容を伝える。 - 生徒主動で決められるように見守る。	- 挨拶をする。 - 本時の学習内容を確認する。 - 生徒主動で決められるように見守る。	
展開 135分	ポスター作りの目的	- ワークシートを受け取る。 - ワークシートの設問「ポスターには何が書かれていますか?」「ポスターをなぜ作りますか?」について考え、ワークシートに記入する。 - 生徒Gは物の名前に関するワークシートで学習を行う。 - ワークシートに記入した内容を発表する。 - ポスター作りに対する共通認識を確認する。	- ワークシートを配布する。 - 見たことのあるポスター、作ったことのあるポスターに「何が書かれているか」、「なぜポスターを作るのか」を生徒が考える時間を設ける。 - 生徒Gには物の名前に関するワークシートを配布し、ST1と学習を進めるように指示する。 - ワークシートに記入した内容を発表する時間を設ける。 - ポスター作りに対する共通認識についてまとめて提示する。	- 記入が進まない生徒に対して、今までの経験を思い出しながら記入できるように言葉掛けを行う。 - ST1は生徒Gと物の名前に関するワークシートで学習を進める。 - 生徒の発言を聞く。 - ポスター作りに対する共通認識について確認する。	ワークシート

	・ポスター作りの条件の確認 ・ペアの発表 ・ポスター作り ・片付け、清掃	・ポスター作りの条件を確認する。 ・ペアを確認する。 ・<u>ペアの仲間と話し合いをしながらポスターを作る。</u> ・<u>相談しながら使った道具を片付け、清掃を行う。</u>	・ポスター作りの条件を提示する。 〈盛り込む内容〉 商品名、商品の写真、学科名、販売場所 ・この他に生徒からの意見で適切なものがあれば採用する。 ・ペアを発表する。 1. 生徒A、生徒Bペア 2. 生徒C、生徒Dペア 3. 生徒E、生徒Fペア 4. 生徒G、生徒Hペア ・分からないことや困ったことがあったときには自ら相談するように伝える。 ・生徒から相談があったときには一緒に考えたり、助言したりする。 ・生徒主動で活動できるように見守る。	・ポスター作りの条件を確認する。 理解していない生徒に対して、個別に説明を行う。 ・生徒から相談があったときには一緒に考えたり、助言したりする。 ・生徒主動で活動できるように見守る。 ・生徒Gが動けずにいるときには具体的に指示をする。	・画用紙 ・ペン ・写真 ・モップ ・バケツ ・雑巾 ・掃除機
整理 10 分	・本時のまとめ ・挨拶	・本時の学習活動を振り返る。 ・日直が挨拶をする。	・本時の学習活動を振り返り、良かった点や改善点について伝える。 ・生徒が姿勢を正しているか確認し、挨拶をする。	・本時の学習活動を振り返り、良かった点や改善点について伝える。 ・挨拶をする。	

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭へ向けて	生徒	生活家庭科3学年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 30 年 11 月 8 日 (木) 2～4校時	指 導 者	MT:木田 ST1:石川 ST2:青山

① 主体的な学びについて

活動の目的が曖昧になったり、作業の工程の意味を答えられなかったりする生徒が多いため、改めて、ポスターを作る意味やポスターに載せる情報を一人で考える時間を設けた。

生徒が今までに見たことのあるポスターや昨年までに学習の中で作ったポスターを思い出しながら、ポスターに載せる内容を考えることで、ポスター作りの目的を明確にすることができた。

② 対話的な学びについて

普段の学習で、特定の仲間に頼ってしまうことが多いため、ペアでの活動にすることでグループごとに責任をもって取り組めるようにした。

大まかな内容については、ペアで対話しながらポスターづくりを進めることができたが、話がうまくまとまらずに時間が掛かってしまったり、細部まで話し合いがされていなかったことで色使いに統一性が無くなってしまったりするグループがほとんどだった。

③ 深い学びについて

1、2年次の経験を思い出しながら、なぜポスターを作るのかを考える活動を行ったことで、「お客さんのために」という共通意識をもってポスター制作に取り組むことができた。しかし、文字の大きさや色の使い方にグループで差が出てしまった。普段、掲示物を作る際にも文字の大きさや色の使い方について指導をしているが、共通して「見られるもの」であるという意識をさせることが足りなかった。

④ STの活用の仕方について

生徒が主体的に行動できるように、教師からの言葉掛けは極力減らし、生徒が質問や相談をしてきたときのみ対応することにしていたためか、支援が最も必要であると予想されるペアの場所にいることが多くなってしまった。支援が必要な生徒に対して、ペアの生徒が働きかけながら活動できるようにするために、教師がどのように動くかを伝えておくべきだった。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭へ向けて	生 徒	生活家庭科3学年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 30 年 11 月 8 日(木)2～4校時	指 導 者	MT:木田 ST1:石川 ST2:青山

① 主体的な学びについて

ワークシートの質問事項について考える活動では、机間巡視を行い、記入が進んでいない生徒には言葉掛けをして、以前作った学校祭ポスターや販売用のポスターにどのようなことが書かれていたか、自分たちで何を書いたかを思い出せるよう促した。思いついたことを適切な言葉で表せない生徒については、言葉を導き出せるように一緒に考えた。

② 対話的な学びについて

二人一組でポスターを製作する活動では、できるだけ生徒同士で物事を相談して決定できるよう、教師側からの積極的な助言は控え、質問された際には返答したり助言したりする程度に留めた。しかし、積極的に対話ができるペアと、一方的、もしくは対話自体があまりないペアがあり、製作時間に差ができた。そのため、対話や発話がうまくできない生徒に対してより多くの支援をしていく必要があると考える。

③ 深い学びについて

ポスター作りに関しては1, 2年時に経験していることから、本時ではレイアウトや文字の色など、ほとんどを生徒の自主性に任せた。これにより、自分たちで考えて取り組むという深い学びに至ることができていたと考えられる。しかし、ポスターを見る人に配慮するという点に関して、例えば同じ項目の色を統一する、値段や品名などの色を強調するなどについてまでは考えが至っていないペアがいたため、状況に応じて助言を行う必要がある。

④ S Tとしての動き方について

本学級には自分から質問や相談を行うのが難しく、教師からの助言を期待する生徒が多いため、期待する素振りが見られた場合には、MTに質問や相談を行うよう促し、積極的な言葉掛けや助言は控えた。また、本時のポスター完成を目指す中、作業に集中しすぎて終了時刻を意識していない生徒が多くいたため、MTに報告し対応をお願いした。今後、スムーズな授業展開のために、このような場合の言葉掛けや対応について、事前の確認に努めていく。

実践レポート（S T用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭へ向けて	生 徒	生活家庭科3学年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成30年11月8日(木)2～4校時	指 導 者	MT:木田 ST1:石川 ST2:青山

① 主体的な学びについて

生徒と1対1で、ポスターや卒業後に使う道具の名前を確認した。確認した物の名前を語群から選び、名前を記入させた。プリントに絵や名前の語群があったことで、視覚的に支援することができた。ポスターをDVDと答えていたが、繰り返していくうちにポスターと答えることができるようになった。繰り返し指導することの大切さを改めて理解することができた。

② 対話的な学びについて

ポスターを作る活動のときには、ポスターの文字や商品の写真の配置をペアで話し合っ作ることができた。支援が必要な生徒へは、ペアになった生徒が意見を聞いたり書いてほしいことを伝えたり、協力したりしてポスターを完成させる場面もみられた。

③ 深い学びについて

どうすれば相手に情報が分かりやすく伝わるのかを考えさせる題材であった。伝える情報を頭の中や紙に書いて整理し、確実にかつ分かりやすく伝えることができるようになる。他の場面でも深い学びとして、コミュニケーション能力向上に生かすことができる。

④ S Tとしての動き方について

補助が必要な生徒に1対1で指導する時間と全体指導に合流する時間について、事前に打ち合わせを行ったので、スムーズに全体指導へ合流することができた。また、生徒が1、2学年で経験したことを生かすために、生徒の活動を見守ることができた。

授業参観者アンケート

授業者： 木田 絢子

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○ 1 学年より

- ・ペアを強調するために、テーブルを別にし、隣のグループのやりとりを真似たり、盗んだりしない環境を作り、発表時に前方のテーブルへ移動する形は、とても効果的であると思いました。(周りの動きや話に反応する生徒が多いという生徒の実態から)
- ・生徒によっては黒板を向かせる位置でワークシートをやらせた方が、流れが見えて、その後の学びにつなげられる可能性があると感じました。
- ・話し合い方の共通したアドバイスを入れられるよう ST との打ち合わせがあるとより良いと思います。(考えさせるのか、大人が正解を教えるのか。)
- ・何のためにポスターを作るのかを理解したうえで制作する意味は、深い学びにつなげるためにはとても効果的と考えます。

○ 2 学年より

- ・生徒が役割を分担することで協力して作業が成り立っていました。
- ・「なぜポスターを作るか」の理由を明確にしたことで、生徒たちが伝えたいことを主体的に考えることにつながったと思います。
- ・自分たちがこれまで見てきたポスターがどんなものだったか、記憶をたどり考えてからワークシートにまとめる様子が見られ、MT の提示の仕方が適切でした。
- ・ペアでのやり取りでは、自分から相手に考えを伝えようとする生徒が多かったと思います。また、自分になかった考えを聞くことで、相手の意見に共感したり、考えを深められたりする場面が見られました。
- ・全体を通して、生徒は人の話を聞く姿勢や発表の仕方がよく、基本的な所が整っていてさすが 3 年生だと思いました。

○ 3 学年より

- ・生徒の意見を板書することで、他の生徒が思いつかなかった意見を知ることができ、学びが深まると思います。
- ・一つのものを 2 人で作り上げるという設定が良いと思いました。
- ・役割分担を生徒同士で話し合うことが自然とできていたと思います。
- ・主体的に考えやすい問題を教師が提示できていたと思います。
(ポスターに何が書かれているか、なぜポスターを作るのか。)

○ 管理職より

- ・発問が明瞭かつ具体的で生徒に分かりやすかったため、MT と生徒との言葉のキャッチボールがスムーズでした。
- ・話し合いの形をペアにすることで対象が明確になり、話しやすい状況作りをすることができてい

ました。しかし、意見が分かれたときの支援の仕方に工夫が必要であると思います。 ・話し合いながらスモールステップで作業が進められたことで、生徒の実態にあった授業になっていたと思います。
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
○1 学年より ・聞く姿勢は統一しても良いのではないかと感じました。 ・ペアが変わった理由は何だったのでしょうか。 ・他の人が意見を発表しているときの態度に改善が必要であると感じました。 ・全生徒の意見を板書することは意欲につながると思います。 ・否定的な考え方や発言をする生徒がほとんどいないことは、ホームルーム経営する上でとても大切であると実感できるやりとりが見られました。 ・ホームルームを客観的な視点で見ることで、新たな発見があると思うので、改めて将来の生活を見据えたアプローチがあることで更なる成長が期待できると感じました。 ・学校祭をテーマに生徒にきちんと伝えていたのが良かったです。 ・ただ行わせるだけではなく、意図をもって授業が設定されていることが良かったです。 ○2 学年より ・ポスターの例があると良かったです。 ・黒板の字がきれいでした。 ・木田先生は、生徒一人一人の意見を最後までしっかり尊重しながら聞き取られていた点が良かったです。板書も見やすく速かったです。 ・青山先生は机間巡視しながら、なかなか考えが浮かばない生徒へ、ヒントなどの助言を適切に行っていた点が良かったです。 ○3 学年より ・生徒によって、プリントはB4位のサイズにし、画像もより大きくして、分かりやすくした方が良いと思いました。 ・口頭で説明した後、どんな説明だったか、生徒にもう一度説明させることで、生徒が本当に口頭説明の内容を理解したのか確認になると思いました。参考になりました。 ・「ポスターをなぜ作るのか。」その理由を考えさせているところが良かったと思います。 ・普段何気なく見ることが多いポスターですが、作る理由を考えることで、その考えがよりポスターのデザインを考える際に反映されたと思います。 ○管理職より ・生徒がじっくり考えられるように余裕をもった時間配分になっていました。個別の配慮が必要な生徒の支援についてもできるだけ最低限度の支援になるように心掛けていたことが良かったです。